

令和元年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和元年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和2年3月13日 午前10時から午前11時まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 305
4	委員出席者	笹本会長、百瀬副会長、小河委員、古根委員、高原委員、須之部委員、細野委員（欠席：春日委員、金井委員、齋藤委員）
6	事務局出席者	那須野文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館兼飯沼飛行士記念館荒深館長、田淵行男記念館曾根原館長、穂高陶芸会館小倉館長、高橋節郎記念美術館黒岩館長、貞享義民記念館清水館長、臼井吉見文学館平沢館長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、松田博物館係員、三澤文化振興担当係長、諏訪文化振興担当主査、内山文化振興担当主任
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	1人 記者 1人
9	会議概要作成年月日	令和2年3月16日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会

2 あいさつ

会長

- ・新型コロナウイルス感染症の関係で、大変な最中である。安曇野市も含め開館している博物館も県内にある。来館者数は通常より少なくはなっているかと思うが、そんな中で、来館される方々にどのように楽しんでもらえるのか、自分とは何かを考えてもらう機会として博物館は重要な役割を担っている。

文化課長

- ・新型コロナウイルスの影響で、市内の小中学校は3月5日より休校になっている。文化課としても図書館を含め40以上の催しを中止した。美術館・博物館・図書館は開館しているものの、閲覧スペースの閉鎖などを行っている。
- ・委員の任期はこの3月末で一区切りとなる。平成30年から2年間、協議会でご尽力いただいた。

3 報告・協議

(1) 令和2年度各館事業進捗状況及び令和2年度事業構想について(資料1)

- 委員 豊科近代美術館について、来年度の企画展で「高田博厚『生誕120周年記念展』」を行う予定とある。荻原碌山はロダンに学んで西洋彫刻から影響を受けたように、高田博厚と西洋の関係、影響の受け方等の流れを展示の中に組み込んでいくことは検討しているか。
- 豊科近代美術館 まだ具体的な展示内容は現段階では決定していない。4月より日展安曇野展を行うことにより、常設展を一度収蔵庫へ戻す。今いただいた意見を参考にしながら、配置や展示順を考えていきたい。

- 会長 豊科近代美術館といえば高田博厚のイメージがある。西洋との関わりについて取り入れてもらいたい。
- 委員 SDG s 2030 の取り組みについて、この活動に取り組んでいる館はあるだろうか。
- 会長 日常生活の中で気にしながら、あるいは館の庭や周辺を少しでも気にすることによって大分違ってくると思う。
- 貞享義民記念館 まだ多くの人々に発信するに至っていない。ただ、本館では人権の啓発という使命もある。かつて人権問題と言えば部落差別や障がい者の問題に限られていた気がするが、現代は多様性の問題として、LGBT から始まりいたる所に人権にかかわる問題がある。全てを一挙に取り扱うことはできないが、テーマに企画展を行っていきたくて考えていきたい。多様性の問題は社会の中に多々あるが、今後もアンテナを高くしていきたい。
- 副会長 全体的に、親子での参加事業は似たような内容が重なっている。近年、夏休みは子どもの参加者の奪い合いである。せっかく開催しても人数が少なく中止にしてしまうよりは、できるだけ館同士で声を掛け合い、外部への発信を提携していくことも必要と考える。
- 会長 館の独自性を示していくためにも分担することも必要かもしれない。各館、年々目標指数を上げているが、限界値を示していくことも大切である。市内には市立美術館もあるが、ぜひ横のつながりを持つために話し合いの場を持ってもらいたい。
- 委員 保護者及び委員の立場で学校ミュージアムを見学した。一人一人の生徒に対し、学芸員による丁寧で親しみやすい作品解説が行われていた。ただ、その場で子どもが興味を持ったとしても、保護者が興味を持たないと美術館・博物館へ足を運んでももらえないと感じる。今回、保護者や地域の方の参加が少なかったようである。広報については学校に任せているようであるが、市としてもっと周知をしたらどうか。
- 会長 子どもたちに来館してもらうには、子どもへの呼びかけだけではだめである。働いている世代はなかなか忙しいとは思いますが、高齢の方のみならず保護者世代に呼び掛けていくことも重要である。
- 事務局 学校ミュージアムは来年で市内の小中学校を一巡する予定である。これは文化庁の補助金をうけ、市内の美術館・博物館で実行委員会を立ち上げ行っている。御指摘の保護者等への周知について、それぞれの学校の考え方も非常に影響してくる。今回は小中学校に隣接した市の体育館があったためそこで開催したが、ほとんどの場合、会場は各校の敷地内で行うことが多い。学校によっては外部の方が来ることを警戒する学校もある。逆にどんどん来てほしいと考える学校もある。それぞれの学校のできる範囲で、保護者や地域の方へ案内をしてもらうという形で行っている。確かに今年度は保護者の方々の姿は少なかったが、過去に開催した学校ミュージアムでは、学校からのお便りによる通知やテレビ取材などもあった。また授業参観の日に開催し、保護者も共に参加してもらったこともあった。今後も、地域や保護者の方々に来ていただけるような取り組みとしていきたい。
- 委員 豊科郷土博物館について、来年度は自然関係の講座は考えているか。
- 豊科郷土博物館 秋季企画展で満願寺を扱うが、その中で自然に触れる講座を開ければと考えている。動植物や帰化植物についても取り上げる予定である。
- 会長 豊科郷土博物館には自然分野の学芸員もいる。また館長も含め、他分野にわたった専門の学芸員が連携を図って企画を行っている。
- 委員 穂高陶芸会館と豊科近代美術館のコラボ展示について、共同企画で他館の資料を展示することは面白いと感じた。県のシンビズムもそうだが、このような学芸員が積極的に取り組んでいく企画は良いと思う。
- 穂高陶芸会館 この企画は平成 29 年から両館のアピールになればと始めた。お互いを高めてい

ければと考えている。

会長 今後どのように協力していくのか、1つの館ではできなくても横に連絡しあい、また互いを鼓舞していくことでより大きな力となることもある。小さなことから積み重ねが、他の館にも共通する部分であると思う。

委員 豊科郷土博物館と貞享義民記念館の予算書について、館長の報酬の部分で、令和2年度より会計年度任用職員の扱いとすることとなっているが、資料を見ると2館の館長の待遇が違っているように見えるが、差はあるのか。

事務局 会計年度任用職員の制度の関係で、予算科目の見直しがあった。これまで賃金及び報酬で計上していたものは、会計年度任用職員の制度では、全て報酬に該当する。館長の待遇に差は生じることはない。

委員 体験学習等の見直しも今の機運では必要になってきている。

会長 学校だけに教育を任せていくのではなく、祭りへの参加など地域教育も大切である。博物館・美術館も学校教育だけに任せていないという様子を見せていると思う。

(2)その他

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。